

# 第 27 回 日本動物児童文学賞審査委員会の会議概要

I 日 時 平成 27 年 7 月 28 日 (火) 13 : 30 ~ 16 : 30

II 場 所 日本獣医師会会議室

## III 出席者

### 【委員】

動物愛護・福祉部会長

木村 芳之 日本獣医師会理事 (動物福祉・愛護部会長)

動物福祉・愛護関係省庁及び教育関係省庁関係者

則久 雅司 環境省自然環境局総務課動物愛護管理室長

清原 洋一 文部科学省初等中等教育局主任視学官

動物福祉・愛護関係学識経験者

内山 晶 日本動物愛護協会常任理事兼事務局長

椎野 雅博 日本愛玩動物協会副会長

須田 沖夫 家庭動物愛護協会会長

【日本獣医師会】 境 政人 (専務理事)

## IV 議 事

- 1 委員長の選任 (協議)
- 2 第 2 次審査に至るまでの審査経過等 (説明)
- 3 審査 (協議)
- 4 その他

## V 会議概要

開会に当たり、境専務理事から、冒頭の挨拶として、6 月の総会・理事会で新たに専務理事に選任されたこと、また、今後の職域別部会委員会や特別委員会での課題や取り組みの方向性等について述べられた。

その後、事務局から委員紹介、日本獣医師会組織体系図、部会運営規程、日本動物児童文学賞事業実施要領、第 27 回日本動物児童文学賞作品募集要項等を説明した。

## 1 委員長の選任

委員の互選により、木村芳之委員が委員長に選任された。委員長就任挨拶として、子供達のやさしい心を育むような作品を選出したい旨が述べられた。

## 2 第2次審査に至るまでの審査経過等（説明）

事務局から、平成27年1月1日から4月20日まで募集したところ、93作品の応募があり、第1次審査を作家の井上こみち氏に依頼し、第2次審査候補作品として12作品が選出された旨説明された。

## 3 審査（協議）

各審査委員による審査候補作品の事前審査結果をもとに、協議の結果、別紙のとおり大賞1作品、優秀賞2作品、奨励賞5作品が選定された。

## 4 その他

(1) 事務局から、本事業の審査方法等のあり方について、1次審査委員からの意見を紹介した。2次審査委員からは次のような意見があった。

ア 小学校でも低学年と高学年では、かなり幅がある。対象学年は区分設定した方が良い。

イ 小学校で先生が授業で取り上げてくれると良い。

ウ 作品の審査は、原稿用紙の印刷物より、データの方が読み易いと思う。

エ 「人と動物との共生」について理解させることは、大人でも難しいかもしれない。

## 5 まとめ

(1) 別紙入賞者のうち、大賞、優秀賞受賞者の表彰は、平成27年9月6日（日）に東京国立博物館平成館講堂にて開催される平成27年度動物愛護週間中央行事屋内行事の会場において行う。

(2) 大賞及び優秀賞の3作品は、「第27回日本動物児童文学賞入賞作品集」として製本のうえ、都道府県等の関係機関、小学校等の教育機関、図書館等に配布される。

【別紙】

## 第27回日本動物児童文学賞入賞作品

### 【日本動物児童文学大賞】

「アザラシ物語」

矢代 稔（神奈川県）

＜受賞理由＞

アザラシの子供の救護を通じて、自然との付き合い方、救護施設の状況、野生動物による漁業被害、動物保護に係る自治体の財政事情、野生復帰に伴う課題まで幅広く伝わるように記されている。主人公の心情もわかりやすく書けており、動物を大切にしたいというテーマが、あまり押しつけがましくなく、自然に感じられる。

### 【日本動物児童文学優秀賞】

「家族になってくれてありがとう」

山岡 ヒロミ（愛媛県）

＜受賞理由＞

ゾウの生態、厳しい生息環境が子供にわかりやすく紹介されている。動物園での繁殖、飼育係の情熱ある活躍の描写も良い。孤児になったゾウの運命を通して、野生動物との関わり、自然破壊への警鐘等、児童に伝えたい内容になっている。

「よわむしくんの決意」

江馬 則子（奈良県）

＜受賞理由＞

犬や猫など動物が苦手な少年が、少しずつ慣れて成長していく過程がよく描かれている。動物を飼う事の責任も上手く表現している。

### 【日本動物児童文学奨励賞】

「いのち ひきついで」

金井 つね子（長野県）

＜受賞理由＞

かつての田園地域における、養蚕農家の生活を通じて、人も動植物の命をいただいて、命をつないでいる事をわかりやすい文章で表現している。

「ユーカリの森」

さいとう まどか（愛知県）

＜受賞理由＞

少年の冬休み体験における山火事を通じ、動物と人との関わり、少年同士の交流、オーストラリアの自然の紹介、少年の動物を思う心等について、情景が目には浮かぶようにうまく書かれている。

### 「おばあちゃんの手押し車」

森 溪介（群馬県）

＜受賞理由＞

少女と捨て猫を通して飼育責任を考えさせる作品であるが、独居の高齢者の動物飼育による生き甲斐、高齢者による動物飼育に伴う問題も提起している。ハッピーエンドの物語に読者である子供達はほっとするであろう。読みやすく、温かさが伝わる優しい作品である。

### 「ひよこさんの願い」

福永 智彦（広島県）

＜受賞理由＞

保護された犬の気持ちになって書かれているが、作者の動物に対する優しさ、温かさが感じられる。子供達に色々と考えさせることのできる作品である。

### 「リョウダンス・ペラヘラ」

柳澤 みの里（東京都）

＜受賞理由＞

スリランカの情景や人とゾウの関係を日本人旅行者の子供の視点で描いている。子供がゾウとの空想の世界に入るといふ物語展開は意外性もあり、面白い。とても文章がうまく、ぐいぐい読ませしてくれる。ゾウの孤児院を通して、野生動物との接し方、環境問題等、深く考えさせられる作品である。